

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成26年2月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい、ゆったりとした生活ができるよう心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800358-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800358-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほのかの里」は、JR栗山駅から車で5分程の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。近隣には栗山公園や商店、ホームセンターなどがあり、生活の利便性が高い事業所である。清掃が行き届いた清潔感のある建物内は、独立した居間と食堂を中心に、周りに居室を配置した広々とした造りになっている。トイレや浴室も、居間などからは見えないようにプライバシーに配慮した間取りになっている。管理者と職員は、各利用者がありのままの姿でゆったりとその人らしい生活が送れるように支援しながら、家族や本人の意向に沿って可能な限り看取りを実施するなど、終の棲家として安心して過ごしてもらえるような環境作りを行っている。旬の食材を数多く取り入れ、彩りや栄養バランスに配慮した献立や、誕生日のちらし寿司や赤飯、「ずんだ餅」などのおやつ作りなど、バラエティーに富んだ毎日の食事は利用者の楽しみの一つになっている。本部を中心に職員の接遇教育にも力を注いでおり、利用者に対する言葉がけやケアは、本人を尊重した丁寧な支援が行われている。職員の親身になって接する姿や明かるい笑顔には、家族からも安心感と喜びの声が寄せられている。法人の代表者と管理者は、更なる運営やケアの充実に向けて日々向上心を持ちながら取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は作られています。日々その理念を意識する工夫が必要のようにも感じられます。	「地域とともに」という地域密着型サービスの意義を意識した法人共通の理念を作成して居間等に掲示している。自己評価などの機会に意識を深めているが、管理者は今後も全職員で振り返る時間を作っ て行きたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通りすがりのご近所の方とご挨拶したり、皆さんと散歩をする際に地域の方とお話ししたりする機会があります。	地域の文化祭に出かけたり、秋祭りのお神輿が事業所まで来てくれるので、利用者と見学してお祭りを楽しんでいる。事業所の夏祭りには、学生ボランティアの手伝いを受けながら、近隣住民と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6月と11月に運営推進会議を開く事ができましたが、まだ目標には到達していません。	役場担当職員や町内会役員、家族が参加して、隣接する法人事業所と合同で開催している。事業所からの報告を中心に、今年度は3回のみで開催になっている。法人を中心に、次年度は回数が増やせるように取り組みたいと考えている。	テーマを記載した開催案内と議事録を全家族に送付し、定期的な開催に繋がるような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問などで、役場の担当者の方とは密に連絡をとる機会があります。	管理者は、家族からの依頼を受けて各種手続きを代行したり、書類の提出や認定更新申請に利用者と一緒に役所を訪問する事がある。住民福祉課の職員が来訪した時は、利用者本人について情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われておりません。日中は非常時以外玄関の施錠はせずに過ごせております。	「身体拘束排除マニュアル」を整備している。「禁止の対象となる具体的な行為」11項目は、職員の日につく場所に掲示して、日頃から意識できるように工夫している。玄関にはセンサーを設置しているが、各職員は利用者の行動を把握して同行し、安全に外出できるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	7月に、虐待防止の研修に参加する機会がありました。御利用者様の自宅や事業所内で虐待があるという話は聞かれておりません。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えていると思います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された際に、意見要望を聞く機会となっていると思いますが、ほとんど聞かれる事はありません。こちらからも積極的に意見を求める姿勢も必要かもしれません。	家族の来訪時に、本人の様子を話して意見や要望がないかその都度尋ねているが、殆ど感謝の言葉や今のままで満足しているという言葉が多く聞かれる。今後は具体的な話をしながら、率直な意向を聞き取って行きたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は極力反映できるよう努めております。	管理者は、日々の勤務の中で各職員と話をしながら提案や意見を取り入れて、働きやすい職場環境整備に努めている。現在、全職員が参加する定期的な会議や勉強会、個人面談などは行われていない。	定期的に会議を開催して職員間で意見を交換する事で、更に充実した運営やケアに取り組めるように期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から、他のホームの管理者同士が集まってミーティングの機会が作られる等、横のつながりを作る工夫がなされています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修が行われ、参加する機会は何度かありました。これから内部研修が行われる予定もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、あまりないのが実情かと思えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	充分かはわかりませんが、一人一人が安心できる関係づくりのために努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係づくりも、できていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。特に他のサービス利用の必要は見られませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所の手伝いや、もやしのひげ取り、掃除、洗濯物をたたむなどというお手伝いを、可能な方はなさってくださっております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は定期的に来訪され、本人の様子を見て、お話しされたり、外出されたりしております。また、夏祭りやクリスマスの際には共に参加して下さっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪などによって、馴染みの人との関係は気付いていけているように思います。	同級生や趣味の仲間が来訪している利用者もいる。以前に踊りを習っていた利用者が、職員と一緒に地域の文化祭に出かけて踊りを見学したり、家族とお墓参りや外食に出かけるなど、個々に応じた支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの輪の中に入っている感覚を、レクなどを通して持つ事ができていると思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありませんが、今後機会があれば必要に応じて行いたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて、意向を把握できていると思います。	表情や仕草、日々の生活の感想などを聞きながら、本人の思いや意向を読み取るように工夫している。アセスメントシートを年1回更新して、新しく得られた情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に普段の会話の中から生活歴を把握し、本人の背景を尊重した支援を心掛けておりますが、職員同士で十分に情報を共有できていない部分もあり、今後の課題と思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理をしない方が良い方には無理をさせず、出来る事は極力自分でやって頂いております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の会話から得た情報を基に介護計画を作成しておりますが、御家族の出入りが少ない御利用者様について、十分に情報を得られていないという部分もあります。	計画作成担当者が、利用者の状況に応じて3~6か月の期間で、各職員から情報を得て介護計画を見直している。職員は、日々の記録をする時に介護計画を意識しているが、見直し時に記録などで直接参加する機会はない。	各職員が、「生活支援計画」の評価項目の記録に参加するなどの取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録を記入し、情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせて、その時その時に必要な柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や季節を感じられる場所などへ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行っています。また、地域の秋祭りなどに参加する機会も作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師に体の状態を見てもらう機会があり、その他訪問診療を受けている方や、受けなくても近くの病院でその都度医療を受ける機会を作ることができています。	かかりつけ医を継続している利用者も居るが、職員が受診に同行して主治医と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。受診記録は介護経過記録や連絡ノートに記載しているが、今後は個別に受診記録を整理して行く意向である。	

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連絡を取りながら、身体的なケアを進めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年の一月に、圧迫骨折で栗山赤十字病院に入院された方がいらっしゃいました。病院の皆さんの協力によって、退院が長引くことなく、無事に退院することができました。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」については、すべての御家族に意向を伺い、同意を得ております。ホームの初期の頃に何人かの看取りを経験しており、ノウハウを知っている職員が何人かいますが、対応の仕方を共有して、明確な方針を持って臨む事が課題です。	「重度化・終末期ケア対応指針」を作成して、常時医療行為が必要になった時は事業所での対応は難しくなる旨を利用開始時に説明している。家族の意向に応じて、主治医の判断の下看取りも行う方針である。以前にも、看取りを数件実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	充分周知しているつもりですが、吐瀉のときに必要な対応ができるよう、定期的な訓練が求められていると思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。	消防署の協力の下、昼夜を想定した火災避難訓練をしている。地域の役割分担は明確にしているが、協力体制の整備と避難訓練への参加は得られていない。災害備蓄品は法人で整備しているが、事業所内の備蓄も充実させていく意向である。	運営推進会議などの機会に、災害時の地域との協力体制を築き、避難訓練に地域住民の参加が得られるように期待したい。また、職員の救急救命訓練が定期的に受講できるような取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が少ない為に、御利用者様と関わる上で気持ちの余裕が持てなくなる場面もあり、工夫が必要と思います。	一人ひとりの話に合わせて丁寧な言葉遣いで会話を交わしている。居間から離れた場所で小さい声で申し送りを行い、プライバシーに配慮している。個人記録などは事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所されている御利用者様に控え目な方が多く、「何でも良いよ」とおっしゃる事が多いため、職員が促して意思決定することが多くなってしまいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な気持ちや大切にできるように、極力無理強いはしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着てしまう利用者さんに、せっかく備えてある新しい服が着れるよう促すなど、少しでもおしゃれを意識できるような支援を行っています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きなものを選んで頂いたり、おやつ作りを一緒にするなど行いました。また、盛り付けを工夫するなどして、食事が楽しめるようになりました。	本部の作成した献立を中止し、誕生日には、ちらし寿司や赤飯などのメニューを提示し、好きな料理でお祝いをしている。おやつ作りに利用者も参加し「白玉団子」や「ずんだ餅」作りを楽しんでいる。野菜など、畑の収穫物が食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日把握して、意識的に水分が取れる支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。口腔内に異常が見られた際には、歯科医師と連携して、治療しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な人にはトイレの定期誘導を行っていますが、極力自立を促しております。極力紙パンツや尿取りパットを使わない努力はしてはみましたが、現状がバランスのとれた状態ではないかと思っております。	半数の方は排泄が自立しており、声かけが必要な方には間隔を見て促している。立位がとれる場合は可能な限り日中はトイレで排泄を支援し、紙パンツから布下着に改善した例もある。さりげない声かけでトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、食物繊維を摂取して頂き、便秘の予防・解消に努めております。また、極力水分を多く摂取するために、お茶ばかりではなく、ジュースなどを時々勧めていきたいと思っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用するなどして、入浴を楽しめる支援を行っております。	日曜日を除き、午後の時間帯に週2回の入浴を支援している。拒否の強い方には強制しないで声かけの工夫や職員を代える等して、少なくとも週1回の入浴を実施している。一人でゆっくり入りたい方には安全面に注意して様子を見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を伺い、休みたい方には休んで頂けるよう促しております。重度化した御利用者様には、昼食後に2時間程度ベッドで安静になって頂くことで、リフレッシュして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による症状の変化について、全員で気に留めるようにしておりますが、服薬についてもっと細かく知っておきたいという現場の職員の声もありました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などをしていると落ち着くという御利用者様には、食事の盛り付けや、テーブル拭き、洗濯物を畳むなどの動作を随時手伝って頂いています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、出かける機会を作る事は出来ませんが、主に御家族と一緒に外出されています。本人から自発的に要望が聞かれた事はありませんが、買い物ツアーなど出来たらいいなと職員間で話しました。	天候を見て、車椅子使用の方も一緒に周囲を散歩したり、庭先でおやつを食べて外気浴を楽しんでいる。体力を見極めながら、出来るだけ外気に触れている。春は「栗山公園」の桜を見に出かけ、地域の秋祭りには出店を見ながら楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行っている人はいないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コミュニケーションを図れる支援を行っておりますが、本人とご家族との関係性に配慮しつつ、御家族と話をしたい本人の思いに答える工夫が必要と思います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の悪さは皆さん特に感じられていないと思います。季節の花を屋内や玄関口に飾るなどして、季節感が感じられる工夫は行っています。また、ソファに座っている御利用者様が、日差しをまぶしいと感じた時には、カーテンを締めるなどの配慮を行っています。	共用空間は居間を中心に、周囲に居室があり、トイレ、洗面所、浴室は居間から見えない奥の方に配置し、プライバシーに配慮した造りになっている。居間は食卓テーブルとリビングを別にし、ゆったりと憩えるように工夫している。大きな観葉植物を置き、壁には利用者の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされる事が多く、また、その時の気持ちに応じて自分のお部屋で過ごす事も出来、自由な雰囲気が作れていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器・衣服など、極力本人の馴染みのものを使用できる工夫をしております。	表札の代わりに本人の写真を飾り、自室が分かるようにしている。室内にはクローゼットとベッドを準備し、馴染みの家具類や鏡台、小物類、座椅子などを持ち込んでいる。家族の写真や装飾、曆などが飾ってあり、温かな雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせる建物だと思えます。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成26年2月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の表情やホームの雰囲気を見て頂ければと思います。</p>
-------------------------------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800358-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800358-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人が理念を理解し、実践しているつもりですが、日頃から意識するための工夫が求められているようにも感じられます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は散歩などをして近所の方と触れ合う機会をなかなか作れなかったという事もあり、今年春からの課題とも感じられます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6月と11月に運営推進会議を開く事ができましたが、まだ目標には到達していません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問などで、役場の担当者の方とは密に連絡をとる機会があります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われておりませんが、介護力の関係で日中にやむを得ず施錠をする事が昨年は何度かありましたので、なくす努力が必要と思います。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者様の自宅や事業所内で虐待があるという話は聞かれておりません。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えていると思います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が頻繁に来訪され、意見要望を聞く機会をたくさん持つ事ができています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は極力反映できるよう努めております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から、他のホームの管理者同士が集まってミーティングの機会が作られる等、横のつながりを作る工夫がなされています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修が行われ、参加する機会は何度かありました。これから内部研修が行われる予定もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修などで同業者の方と交流する機会がありますが、あまり交流できていないのが実情と思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	充分かはわかりませんが、一人一人が安心できる関係づくりのために努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様も自由に要望を出せるよう、雰囲気作りを行っているつもりです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。特に他のサービス利用の必要は見られませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を置くなどの、日常的な作業に参加して頂く機会を作り、生活に参加している意識を作る努力をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は定期的に来訪され、本人の様子を見て、お話しされたり、外出されたりしております。また、夏祭りやクリスマスの際には共に参加して下さっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪などによって、馴染みの人との関係は築けていけているように思います。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所したばかりの方がいらっしや、なかなか馴染めずにはいましたが、徐々に慣れてきた様子です。今後も、共に過ごす事を楽しめるよう支援することが課題と思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありませんが、今後機会があれば必要に応じて行いたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて、意向を把握できていると思いますが、思いに答える事が難しいと感じられる場面もあります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に普段の会話の中から生活歴を把握していますが、生活歴を意識したケアができていないか、未知数の部分もあり、今後の課題とします。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方が出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がそれぞれの介護職員から御利用者様の情報を聞き出し、作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録を記入し、情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせて、その時その時に必要な柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や季節を感じられる場所などへ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行っております。また、地域の秋祭りなどに参加する機会も作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師に体の状態を見てもらう機会があり、その他訪問診療を受けている方や、受けなくても近くの病院でその都度医療を受ける機会を作ることができます。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連絡を取りながら、身体的なケアを進めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者様が入退院する機会はしばしばありましたが、その都度病院と連携をとる事が出来ました。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの機会が昨年、今年とあり、その都度ご家族様と密に連絡を取って方針を話し合いました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	充分周知しているつもりですが、咄嗟のときに必要な対応ができるよう、定期的な訓練が求められていると思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけを丁寧に行うことの大切さを、全員で周知して、同じ意識を持つための工夫が求められています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様一人一人が、自由な気持ちで生活できていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体的なケアが多くなってきており、一人一人の思いを十分に汲み取れていない感もありますが、一人一人のペースを大事に過ごせていると思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみには気を付けていますが、特に出かける前や行事のときには、いつもよりいい服を着て、身だしなみを整えて過ごせる支援を行っています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを尊重し、そばの嫌いな方にはうどんを食べて頂くなど、工夫を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日把握して、意識的に水分が取れる支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には極力歯磨きを促していますが、重度化した御利用者様の口腔ケアなど、十分にできていないところもあり、今後の課題と思います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方については、一人一人の排尿の感覚を把握し、時間毎に声かけを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	重度化した御利用者様の排便困難が目立ってきていますが、下剤などを効果的に使用することで、解決に向かっていくところではあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する御利用者様が多く、声かけに工夫を要していますが、全く入浴出来ていないという御利用者様はいらっしゃいません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さん十分に休息できていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について、職員全員で理解し、飲み忘れや間違いがないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様はもっと楽しみや気分転換がほしいと思っているかも知れないと思うので、以下に楽しみを作るかという事は今後の課題です。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化している方が多く、出かける事が難しいという実情があります。元気な方だけでも、もっと外に出られる工夫を行っていききたいところです。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行っている人はいないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を利用したいというニーズも特に聞かれていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の悪さは皆さん特に感じられていないと思います。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされたり、お部屋で過ごされたり、自由にされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器・衣服など、極力本人の馴染みのものを使用できる工夫をしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせる建物だと思います。		



## 目標達成計画

事業所名 ほのかの里

作成日：平成 26年 4月 10日

市町村受理日：平成 26年 4月 10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催数が目標に達しておらず、また開催案内などが全家族に送られていない。	運営推進会議を定期的に行い、ご家族にその意義を知って頂く。	運営推進会議のテーマを記載した開催案内と議事録を全家族に送付する。	1年
2	11	全職員が参加する定期的な会議や勉強会、個人面談などが行われていない。	ホーム内でのスタッフ会議を定期的に行う。	2か月に一度、昼食後の時間を利用して、スタッフ会議の時間を作り、定例化することを目指す。	1年
3	26	介護計画について、見直し時に全職員が参加する機会がない。	全職員の意見を反映した生活支援計画を作成する。	生活支援計画の見直し時期が近づいたところに、昼休みなどを利用してスタッフ同士の話し合いの時間を持ち、全職員を巻き込んだ介護計画作りを行う。	1年
4	35	避難訓練が、地域住民と一緒にできていない。	避難訓練に地域住民が参加できるようにする。	運営推進会議などの機会に、避難訓練への参加を呼びかけ、協力体制を築けるように努める。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。